

第13回国土強靱化推進会議 議事概要

日時：令和7年3月28日（金）15:00～16:20
場所：TKP 新橋カンファレンスセンター（15E）

【出席者】

委員：小林議長、浅野委員、磯打委員、臼田委員、大串委員、加藤委員、鋤田委員、近藤委員、阪本委員、戸田委員、中嶋委員、中村委員、藤沢委員、屋井委員
政府側：今井政務官、森室長代理、丹羽次長、今村審議官、笠尾審議官、河合審議官、奥田参事官、渡瀬参事官、塩井参事官、村山参事官、堤企画官、杉田企画官、都外川企画官、高木企画官、今井企画官

【議事次第】

議事

- （1）第1次国土強靱化実施中期計画（素案）について
- （2）国土強靱化年次計画2025（素案）について

議事（1）第1次国土強靱化実施中期計画（素案）について

（臼田委員）

- ・第1次国土強靱化実施中期計画の「デジタル等新技術の活用」の施策と「デジタル社会の実現に向けた重点計画」に挙げられている防災のデジタル化の施策は一致することが望ましいのではないか。

（近藤委員）

- ・緊急輸送道路に関して、発災後概ね1日以内に緊急車両の通行を確保し、概ね1週間以内に一般車両の通行を確保するという大きな数字的な方針は分かりやすい。企業のサプライチェーンの維持・継続の観点から、事業再開目標について、電力や水道など同様の数値目標を発信できないか。BCPを作成・実行する上でも重要な観点となり得る。
- ・国土強靱化の施策について、例えば「道の駅」に使い方について、国民や企業に伝えていくことも重要。パブリックコメント後、計画がまとまった段階で、スピード感をもって周知することを検討いただきたい。

（中村委員）

- ・流域治水では生態系ネットワークについても取り組むこととされているので、この点についても触れて頂きたい。
- ・流域治水の環境目標については、グリーンインフラの取組そのものであると考えられるので、全体が見えるよう記載箇所等について整理頂きたい。
- ・山火事に関連し、国土強靱化では豪雨災害等にフォーカスされるが、渇水や乾燥

等も起きており、そちらにも目を向けるべきである。今回の加古川地域における山火事の拡大は大きな脅威であり、記載を検討いただきたい。

- ・ 平時の環境について評価していただきたい。環境基本法にもあるウエルビーイングや暮らしやすさについて、国土強靱化の中でも求めていくべき。

(阪本委員)

- ・ スフィア基準に関して記載されているが、項目と具体の施策・指標が少しかけ離れている印象がある。避難所運営の好事例を周知した割合とあるが、スフィア基準を満たしているとは判断できないのではないかと。例えば、「避難所の栄養状況の改善」や「最低基準を満たしたトイレの整備状況」などの観点から追記するなど、スフィア基準に適合する指標を検討していただきたい。

(磯打委員)

- ・ 「地域における防災力の一層の強化」に関し、本当にこの内容だけなのか。例えば、住民が主体的に取り組む地区防災計画など、住民が自分達の力で、多様な主体と連携して地域の安全を獲得していくような取組を期待したい。

(浅野委員)

- ・ 内閣府男女局が毎年行っている調査データの中には、例えば、男女共同参画の視点に立った防災人材の育成や、行政の防災・危機管理担当職員の女性を配置状況に関する詳しいデータが含まれている。このようなデータを活用した指標の追加について検討してほしい。
- ・ 具体的な事業や施策以外に、貧困率や女性のケアに関わる場所の提供、環境や産業の問題等、社会状況を示すような指標を参考指標としても活用することも含めて検討が必要。

(加藤委員)

- ・ KPI について、ハード事業はきちんとした積み上げにより完了していく一方で、ソフト事業は、継続して取組んでいくことが非常に重要。ソフト施策は、やっつけしまえば終わりというものは少なく、社会に定着し、それを強化していくことが重要であり、この観点から指標の捉え方を考えていくことが大事。

(大串委員)

- ・ 上下水道に関して、今までのネットワーク型施策から分散システムへの配慮を入れるなどしていただいたが、地域によって最適な施設の形は様々で、それに応じて政府の施策を推進していく目配りが必要。
- ・ スフィア基準等を踏まえた避難所環境の改善に関しては、ベッドの台座といった汚れやすいものの備蓄の強化や、トイレの設置場所に応じて防風対策を施すなど、きめ細かな対応ができるための基準も必要。
- ・ とりわけ、衣食住の中でも、上下水道、トイレ、電気、通信は非常に重要であ

り、避難所生活においても事欠かないようにもう少し踏み込んだ検討が必要。ウェルビーイングの観点からも記述を強化していただけるとありがたい。

議事（２）国土強靱化年次計画 2025（素案）について

（中村委員）

- ・ 地域計画の策定率が 99%に進んだことは素晴らしいが、内容について検討されているのか。同じような内容になっていると、実効性が担保されないのではないか。この辺の議論が必要である。

（大串委員）

- ・ 地域計画では「国がここまでやるので、地域はそれ以外をやって欲しい」とアップデートしていかなければいけない。国がどこまでやるのか。今まで地域に任せていたものを引き取っていくのか、引き続き地域に任せるのかについて、情報共有をしていかなければいけない。